
要望演題 | 1-19 学校保健・疫学・心血管危険因子

要望演題11

児童生徒の心停止、AED

座長:

三谷 義英 (三重大大学)

檜垣 高史 (愛媛大学)

Fri. Jul 17, 2015 4:10 PM - 5:00 PM 第4会場 (1F ジュピター)

II-YB11-01~II-YB11-05

所属正式名称: 三谷義英(三重大大学医学部 小児科)、檜垣高史(愛媛大学医学部 小児科 地域小児・周産期学講座)

[II-YB11-03]学校救急におけるチームによる連携トレーニングの重要性

○檜垣 高史^{1,2}, 千阪 俊行², 太田 雅明², 高田 秀実², 森谷 友造^{1,2}, 山内 俊史², 宮田 豊寿², 山口 洋平², 山本 英一², 小西 恭子², 石井 榮一² (1.愛媛大学医学部附属病院小児総合医療センター 小児循環器部門, 2.愛媛大学大学院医学系研究科 小児科学)

Keywords: 学校救急, 突然死, シミュレーション

【背景および目的】学校現場において子どもたちを突然死から守るためには、学校心臓病検診の精度の向上と、5分以内の除細動をめざすためには、各学校に3~4台のAEDの複数設置が必要であり、救命例も含めてその有効性をすでに報告してきた。緊急時にAEDをより有効に用いるためには、事故を想定したシミュレーションが重要であり、学校現場での取り組みについて検討し報告する。【対象】松山市のすべての小・中学校【方法】仮想事故現場を、運動場または特別教室などに設定して、教職員によってシミュレーションを施行し、その時の問題点や改善点などについて検討した。シミュレーションは応急手当普及員の研修を受けている養護教諭を中心に企画し施行した。学校によっては、生徒も参加した。チェック項目を、認識、応援の依頼、119番通報、AEDの手配、胸骨圧迫、呼吸、AEDの操作、蘇生の確認、周辺の安全などについて評価した。【結果】シミュレーションの結果、明らかになった問題点や疑問点は、死線期呼吸についての理解、救急車の誘導・救急隊の誘導において、正門のレイアウトによっては、業者の車両が駐車していたりすると救急車が侵入できないなど、できるだけ中断しない胸骨圧迫、その他の生徒の安全確保や二次災害への配慮が必要なこと、緊急時の教職員の役割分担についてなどであった。実際にシミュレーションすることによって初めて気が付くことが多くあることを改めて認識した。【考察および結語】学校救急体制の充実を目指すためには、胸骨圧迫とAEDを中心とする講習から、チームによる連携トレーニングに発展させることが重要である。